

未来の話

碩田学園 九年 黒田 潤

「戦争なんてやめよう！」

「武器を捨てよう！」

「先人の想いをつなごう！」

毎年八月に行われる平和学習で、こうした言葉を聞きたびに、そうは言ってもなあと、漠然とした疑問を抱いていました。

昨年の夏、先生に誘われ、私は戦争経験者の方々へインタビューすることになりました。その日から質問を練り、やがて友人と共にインタビュー当日を迎えたのです。

お相手は、田所さん、川並さんのお二人でした。

「戦後、小学生になっても空襲の夢を見ました。」

「大分駅から海が見えました。」

それは確かに、戦争と共に生きた人の日常でした。私は最後に

「日本は、これから平和とどう向き合っていくべきでしょうか。」

と尋ねました。戦争を経験された方だからきつと、理想的なお話をされるだろうなと思っていた私の予想に反し、田所さんはこうおっしゃったのです。

「戦争はなぜあるのか、ただ反対するのではなく、よく考えることが大事です。もちろん戦争には反対ですが、力をなくそうとは思いません。でなければ、国は守れないと思うからです。」

それは、自分の中にあつた漠然とした疑問が「これだ！」と晴れた瞬間でした。

真に平和を考えるとすることは、単に「こうなつたらいいな」という理想を掲げるだけでなく、動かせない現実との間で折り合いを見つけることだと強く感じました。

この世界が抱える様々な問題から目をそらして平和を語っても、それは、真の意味で平和を考えているとは言えないと思います。私たちは、平和学習の時だけ平和について考えるのではなく、日頃から、世界のニュース、これまで地球で起きてきた歴史、そして、私たち一人ひとりが大切にしている考え方や価値観、文化、これらすべてにもっと目を向ける必要があります。戦争を経験された方にお話を伺い、当時を知り、その人の辛さや苦しみを理解するのは確かに意味のあることです。しかし、そこで終わってしまったのは、他の人の記憶や感情を追体験しただけに過ぎません。色々な情報を手に入れ、その真偽を自分なりに確かめること。もしかしたら違う見方ができるのではないか、ともう一度考えてみることに。大事なものは、正しく認識した現状と、過去の出来事をつなぐ、未来に向かってどう行動するか考えることだと思います。そして、その考えをお互いに伝え合い、話し合うことが、これからの平和を築くために本当に必要なことではないでしょうか。私の考えていることと、あなたの考えていることを伝え合い、組み合わせたら、何か平和を守る斬新なアイデアが生まれるかもしれません。

田所さんはこうも教えてくださいました。

「『やめようよ』よりも『やってしまえ』という方が簡単で、世の中全体がそうなれば止めるのは難しい。だからその一歩手前で止めるんだ。」

最近、中国と台湾の間で緊張が高まっています。ロシアによるウクライナ侵攻はい

まだ終わりが見えません。身近なところでは、大分大学など二十二の大学が、軍事研究費の助成を受けたと新聞に載っていました。世界は確実に戦争と混乱の時代へ傾こうとしています。

まさに「一歩手前」の今だからこそ、私たちは大勢に流されないように、それぞれが自分自身の確かな意見を持ち、未来の話をしなければなりません。

帰り際、私は、田所さんから「私が持っているより君が持っていた方がいいと思うから」と一冊の古びた本を手渡されました。それは、大分の空襲を記録した本でした。私は、何かとても大切なものを託されたように感じます。

私には、まだ知らないことがたくさんあります。平和について人と意見を十分に語り合ったとも言えません。だからこそ、私はこれからも学び続け、この世界が抱える課題に対し、理想と現実の双方に目を向けながら、多くの人との対話を重ねていきたいと思っています。

みなさん、一緒に未来の話をしませんか？